



明峰

令和8年5月7日

第3号

校長 岡野利男

※体育大会のテーマが決定しました。

「百花繚乱

～最高を越えた彩光の舞台へ～

とてもいいテーマです。17日のグラウンドに多くの花が咲き乱れること、楽しみです。

子供にかけてあげるべき「四つのもの」

楽しみにしていた大型連休もあっという間に終わりました。保護者の皆様におかれましては、お子様の競技の応援に出かけられたり、あるいはご家族で“日頃なかなかできないこと”に取り組まれたり、きっと、様々であったことでしょう。

“日頃なかなかできないこと”、私にも、活動的でも知的でもないけれど、「昨日」楽しんだことがあります。テレビで、メジャーリーグの大谷選手の応援を、試合開始から終了までできたことです。

今年は、ここまで打撃の調子が今一つ上がらず、打者として苦しんでいる大谷選手。ネットで好き勝手に批判している人の意見に大人気なくカチンとくる私です。だって、どれだけ多くの日本人が、この数年、大谷選手の活躍に・立ち居振る舞いに、元気をもらい・明るい気持ちにさせてもらったことか。残念ながら昨日は素晴らしい内容ながら負け投手になってしまいましたが、今朝の試合では2安打でした!! 大谷選手の一ファンとしてこれからも応援を続けます。

さて、大谷選手の高校時代の恩師はご存じのとおり、花巻東高校の佐々木洋監督。私は、7年前に、機会あって佐々木監督の講演を拝聴したことがあります。昨日、試合観戦の後、(…連休中の飲み過ぎ・食べ過ぎの負債解消のために…)1時間ばかり散歩しながら、その講演の録音を改めて聞いた次第です。すると「『学校だより』で保護者や地域の皆様にも紹介したい」と思うことがたくさん…。ちなみに、佐々木監督は、今年、51歳。お話の時の年齢は44歳。ただただ、脱帽です。すごい…。

タイトルに掲げた「子供にかけてあげるべき『四つのもの』」は佐々木監督が講演の一コマで口にされた言葉です。

1 「時間」をかけてあげる

現代は、効率やタイムパフォーマンスが重視されますが、子供に対して「時間をかける」ほど大切なものはないということ。じっくりと向き合い、対話し、成長を待つ。その費やした時間の長さこそが、そのまま子供との相互信頼になるというお話でした。

2 「言葉」をかけてあげる

佐々木監督は、「いい言葉」をかけることの重要性を、講演中、何度か口にされました。監督によれば、人生を幸せにする魔法の言葉が二つ。それは、**「そのためには」と「どうすればいいか」**とのこと。

さらに、その反対に、不幸にする四つの言葉に、**〈でも〉〈だって〉〈どうせ〉〈だけど〉**を挙げ、これらを、「できないことへの言い訳のソフト」と呼んでおられました。

「そのためには」の言葉の後には、必ず具体的な計画が生まれ、「どうすれば」の思考は、未来の解決策へのスイッチが入るとのこと。確かに、この数年、盛んに言われるようになりました。できない言い訳を並べるより、できるためにどうすべきかを考えるべき だという言葉です。

3 「期待」をかけてあげる

監督は、「大人が本気で期待をかけることで、子供の中に『自分は期待に応えられる人間なのだ』という自覚を芽生えさせることにつながる」とおっしゃっていました。しかも、実力より少しだけ高いところに目標を置き見守ってあげることが良いとのこと。これは、次の4番目の話と関連するものです。

4 「負荷」をかけてあげる

3と関連して、監督は、このことに力を入れて話をされました。「負荷をかけすぎると壊れてしまう。しかし、かけなさすぎると成長は止まる。適度な負荷こそが、一番人を成長させるものだ。」という話です。筋力トレーニングと同じで、少し苦しい・頑張らないと届かないという「負荷」を適切にかけてあげることが、真の優しさであるという考え方です。

3年生は、今、「歴代最高」を掲げた昨年の3年生に一步でも近づきたいと努力を重ねています。各部・チームは、残り40日を切った中総体に向けて、目標を設定し終えたところでしょうか。

大人として、私たちは、時間、言葉、期待、負荷の四つをかけることを意識したいですね。もちろん、「愛情をもって」且つ「かけ過ぎないように」を土台として。

